

頁	意見の対象項目	意見 及び 町の考え方
11 頁	屋久島町の将来像	<p>第一段落の、「本町は、国内で初めて世界自然遺産に登録された地域を有し、この世界に誇れる資源を永久の資産として次世代に遺す責務を負っています」と最初にくるのが、気になります。誰がその「責務」を決めたのですか？私たち町（町民）にとって、最も重要な「責務」なのですか？第二段落にも「本町の資産を次世代に受け継いでいくためには～」とありますが、やはり気になります。「世界遺産」のブランドの歴史はたった23年。しかも自然遺産における屋久島のクライテリアは「自然景観」「地形・地質」「生態系」「生物多様性」の4つであり、「島に暮らしてきた人々の生活文化や歴史」は、全く含まれていません。ましてや、世界遺産エリアは誰も暮らしていません。よって、第三段落の「悠久の流れの中で、脈々と受け継がれてきた伝統・文化・集落の営み～」を一番最初に持ってきた方が、「屋久島町という住民が暮らす町」という意味からも、ベストなのではないでしょうか。世界自然遺産は2番目に。</p>
	町の考え方	<p>本町は、屋久島の類い稀な自然を後世に引き継ぐため、平成25年に「屋久島からのメッセージ」を発信していますが、「悠久の流れの中で、脈々と受け継がれてきた伝統・文化・集落の営み」もまた、本町の貴重な資産であることから、ご指摘のとおり、文章の構成を見直します。</p>
17 頁	屋久島“プレミアム”アルコールプロジェクト	<p>焼酎いもの増産は理解できます。ウイスキーは理解できません。原料<麦、ピート、ホワイトオーク（代替材？）、酵母（屋久島の酵母？など>の調達、製造技術者の確保、商品化までの年数<商品完成までの期日>など、極めて課題が多く、可能性調査以前の問題ではないでしょうか。「水の島 屋久島」というならば、「水」そのものの「新しいコンセプトづくりによる商品開発」の方が現実的だと思います。シードルは青森市、ラム酒は奄美との連携ですか？どちらにしても「屋久島の水」の「コンセプトワーク」をきっちりやる方が良いでしょう。ちなみに、以前、屋久島町で取り組んでいた「酵母菌」のプロジェクトはどうなったのでしょうか？あのままで終わるのはもったいない。同じ可能性調査なら「酵母菌からの商品開発」が良いと思います。</p>
	町の考え方	<p>屋久島産ウイスキーは、ご指摘のとおり課題が多いことは認識しておりますが、ウイスキーの製造については県内にも例があり、ウイスキーの世界的な消費量についても魅力があることから、ご指摘の課題を含めて可能性を調査します。</p> <p>ラム酒、シードル等については、あくまで例であることから、「屋久島の水」を活かした地ビールの商品化等、本町の活性化につながる新商品の開発を支援していきます。</p> <p>また、酵母菌のプロジェクトについては、18 頁の「新たなワ</p>

		ークスタイルプロジェクト」の具体的事業「屋久島ラボラトリー誘致促進」の中で取り組みます。
17 頁	儲かる農林水産業プロジェクト ・基幹作物等を活用した販売開拓事業（ポンカン缶詰）	ポンカンについては価格の低迷により栽培面積、生産量とも減少の一途をたどっている。タンカンの規格外品については、ジュース等に加工され、有効に使われているが、ポンカンについては利用がされず廃棄されている。渋みが強いことからジュースへの活用も低い。有効利用をはかり、生産拡大と農家の所得向上をはかるべきである。
	町の考え方	ぽんかんの規格外品による缶詰については、事業内容によって、「屋久島のご馳走プロジェクト」の具体的事業「新たな特産品・メニュー開発の支援」、「地域産品の開発と販売促進支援事業や「新たなワークスタイルプロジェクト」の具体的事業「屋久島ブランドを活用した企業の支援及び企業誘致」に該当するものと考えられますので、担当課へ意見はつないでおきます。
17 頁	機能性農林水産物の実証栽培 ・基幹作物としてのアボガド栽培の奨励	農産物は気象条件に左右され、安定的な所得向上につながらない面が多い。ポンカン、タンカンにかけりがみえる今、新しい期間農産物の発掘が急務となっている。国産が少なく、高価格が期待できるアボガトの試験栽培が必要。
	町の考え方	アボガドの試験栽培については、「儲かる農林水産業プロジェクト」の具体的事業「機能性農林水産物の実証栽培」に該当するものと考えられます。 また、農林水産課が試験園において、既にアボガド栽培の実証を行っておりますので、実用性について参考にしたいと思います。
17 頁	具体的施策	町条例によるポンカン、タンカンの販売戦略の策定。島から出荷するポンカン、タンカンについては光センサー選果したものでないと商品として出せないとの条例による規制をかけたかどうか。
	町の考え方	ぽんかん・たんかんの販売戦略として、光センサー選果規制及び条例化については、実務上の問題点や条例化の必要性について担当課と協議しますが、現状では総合戦略の具体的事業としての判断は難しいことから、今回の総合戦略への記載については見送りとします。

18 頁	新たなワークスタイルプロジェクト	KPI に「企業等誘致件数」や「企業等誘致による新規雇用者数」が設定されていますが、これをクリアするためには、「ハード整備」が絶対条件です。ICT を謳うならば「光ファイバーの普及」にまず着手すべきです。具体的事業はそれから。プロジェクトの設定、KPI の設定に無理があると思います。
	町の考え方	<p>ご指摘のとおり、光ファイバーの敷設は企業誘致等に必要な条件と考えており、P27 の戦略プロジェクト「ICT活用プロジェクト」では、新規ビジネス創出を支援するため光ファイバー敷設による無線 LAN の導入を推進し、具体的事業「光ファイバー敷設による無線 LAN の導入」やKPI「光ファイバー敷設による無料無線 LAN の導入件数 10 件」を掲げております。</p> <p>「新たなワークスタイルプロジェクト」では、光ファイバーについて、直接言及はしておりませんが、「ICT活用プロジェクト」との有機的な結びつきによって、KPI の達成を図っていきます。</p>
21 頁	屋久島森林トロッコの復活利用 (追加要望)	<p>本町の観光は、平成 18 年度をピークに年々減少の一途をたどっている。</p> <p>世界文化遺産指定地が増加したことや入り込み運賃が高騰したことも原因と考えられる。</p> <p>島の産業構造は世界遺産指定後、第 1 次産業主体の島から観光産業主体の島へと変化していることから誘客対策が急務となっている。</p> <p>縄文杉一極集中の解消や里めぐり観光を推進し、雇用拡大を図る上からも森林トロッコの復活利用を促進する。</p> <p>運行開始までの初期投資額 1.0 億円 初期年間利用者数(想定) 6 万人 雇用人員(運転手、添乗者、保線員を含む) 15 名 運行距離(苗畑～トンゴ滝) 約 1.5km 運行回数 1 日 5 往復</p> <p>※NPO 法人屋久島森林トロッコが企画、広報、啓蒙を担当し、運行については専門の技師、ノウハウをもつ法人に委託する</p>
	町の考え方	<p>移住者のアンケートによると、移住者の大半は、事前に屋久島へ訪れてから移住を決断している傾向があることから、交流人口を拡大することは極めて重要と認識しております。</p> <p>このことを踏まえ、この総合戦略においては、21 頁にありますように屋久島空港の拡幅といった、誘客のその根本となす施策に取り組むこととしております。</p> <p>今般、追加要望の「屋久島森林トロッコの復活利用」については、当該事業が将来人口 11,000 人を目指す取り組みとどのように関連付けされているのか判断が難しいため、今回の総合戦略への記載については見送りとします。</p>

26 頁	地域コミュニティ再生プロジェクト	各集落の「自治会」という表現に違和感があります。屋久島町に「●●自治会」という団体は存在しないと思います。
	町の考え方	ご指摘のとおり、表現を見直し、「自治会」を削除します。